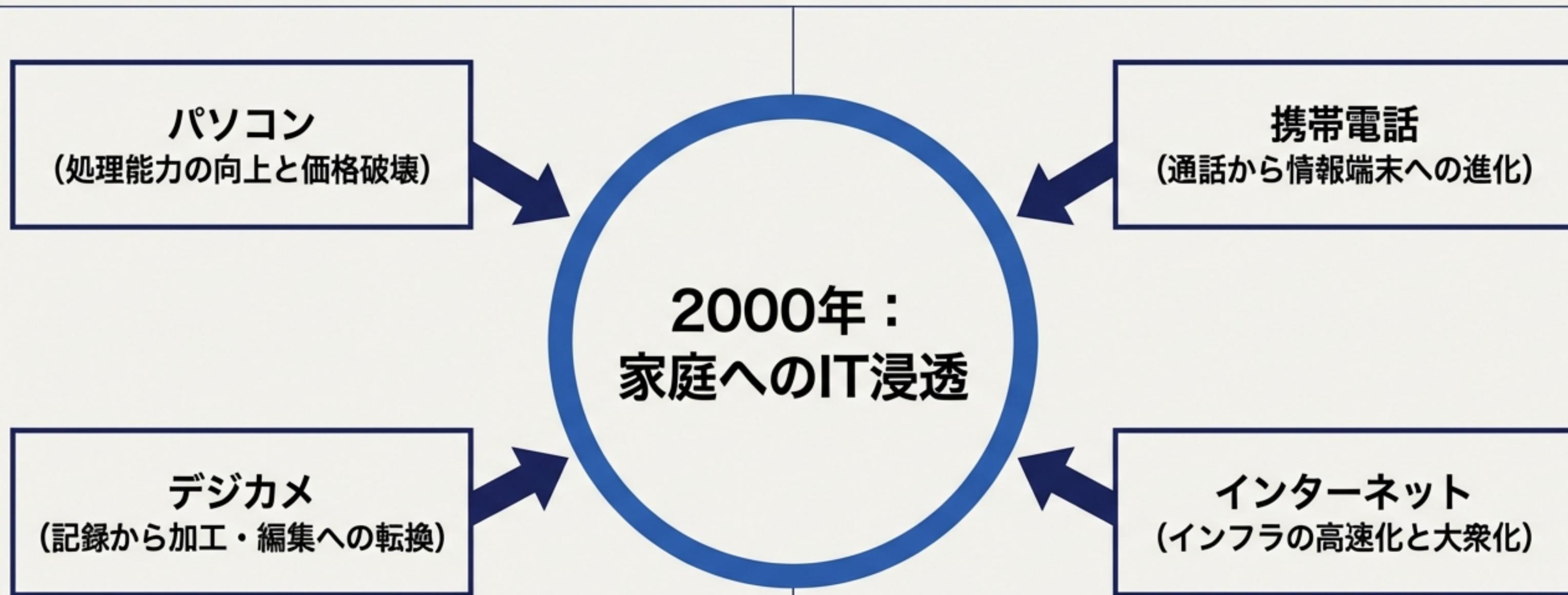


身の回りの情報化：2000年の変曲点

IT革命がいかに私たちのライフスタイルを激変させたか

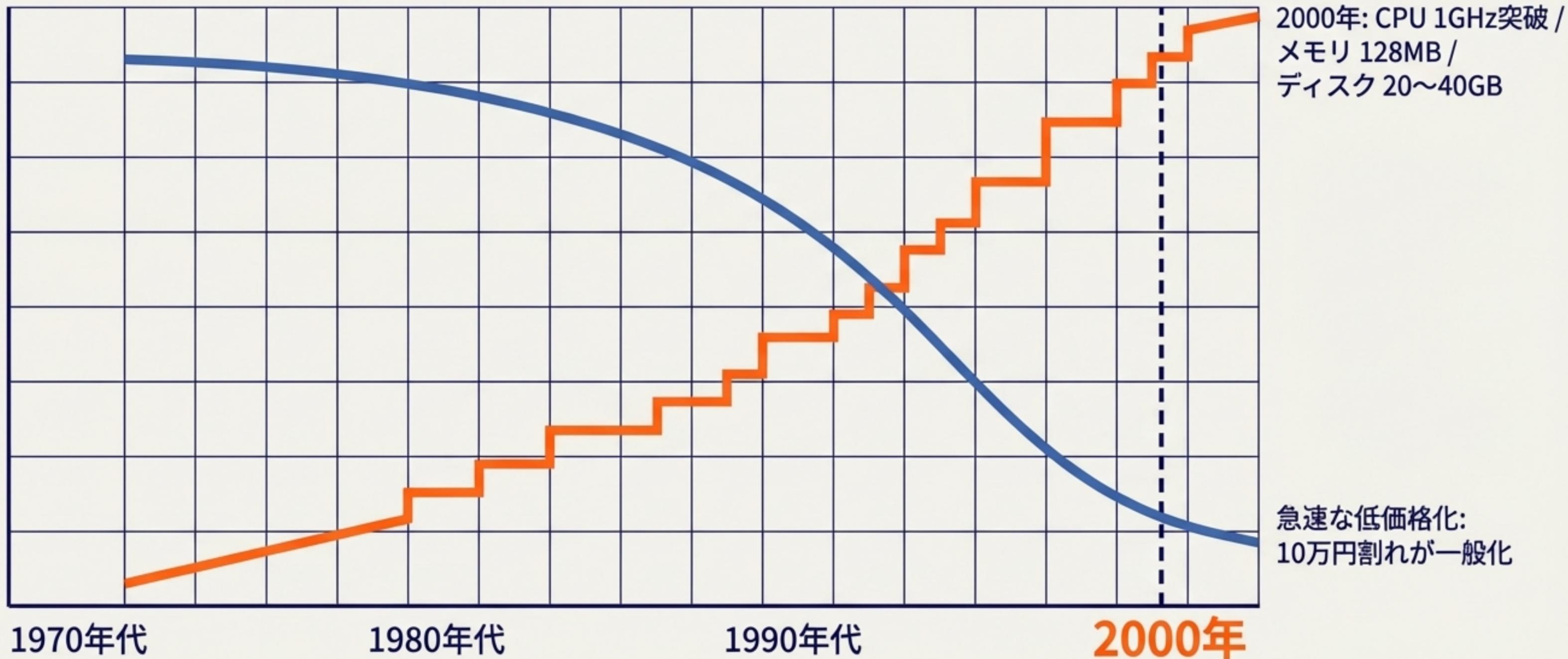
情報化社会の幕開け：4つの技術の融合



バラバラに進化していた情報機器が、2000年前後に一気に繋がり、私たちの生活様式（身の回りの情報化）を不可逆的に変容させた。

ムーアの法則：情報化を牽引した見えないエンジン

半導体の集積度は18~24ヶ月ごとに倍になるという経験則。



デバイスシフト①：パーソナルコンピュータの爆発的普及

1,000万台

2000年の国内出荷台数

2兆円

2000年の市場規模

40%

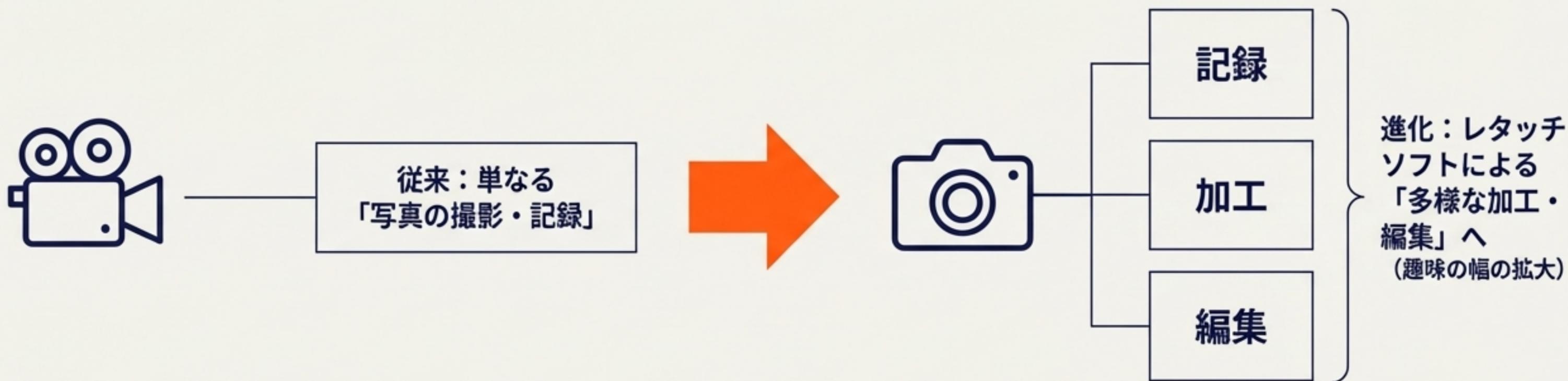
家庭での普及率
(急速な所有率・利用率の増加)

2000年の転換点：3つの「主役交代」

従来のアナログ・専用機 (旧主役)	デジタル・汎用機 (新主役)	2000年の「逆転劇」
カラーテレビ	VS パソコン	出荷台数をパソコンが突破 (エンタメの中心の移行)
ワープロ専用機	VS パソコン	普及率をパソコンが逆転 (ワープロ有カメラメーカーが続々撤退)
銀塩カメラ	VS デジタルカメラ	出荷金額でデジカメが逆転 (デジタル化の波)

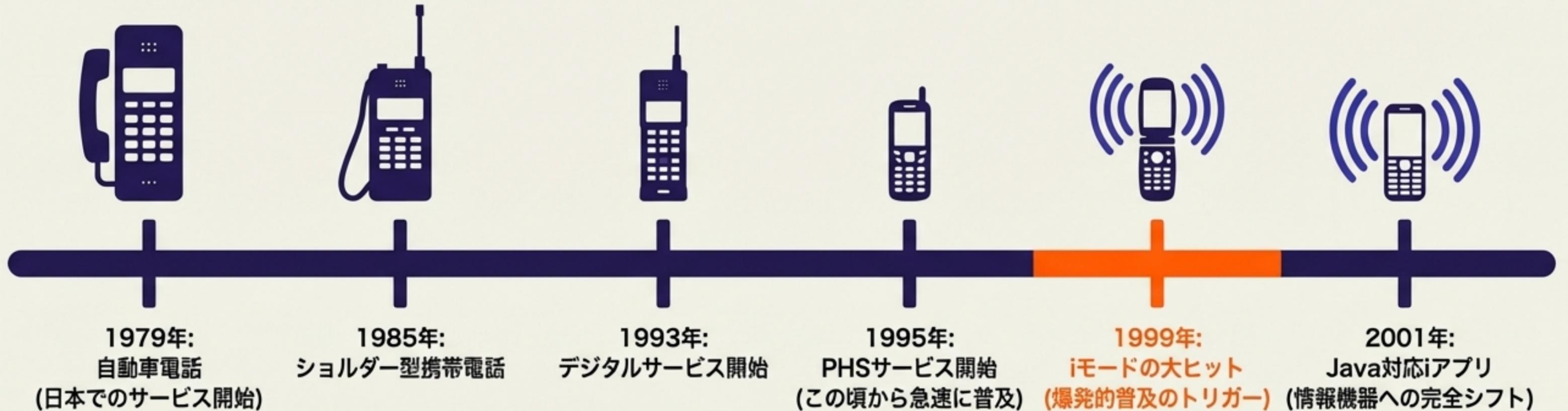
デバイスシフト②：デジタルカメラ の台頭と価値の転換

1981年 ソニー試作機「マピカ」発表
→ 1997年頃より急速普及
(半導体低価格化+PC普及+画像処理ソフトの発展)



普及の決定打：価格 [5万円程度] で十分な機能 / 画質 [1000万画素] の高解像度モデルも登場

デバイスシフト③：携帯電話の進化ロードマップ



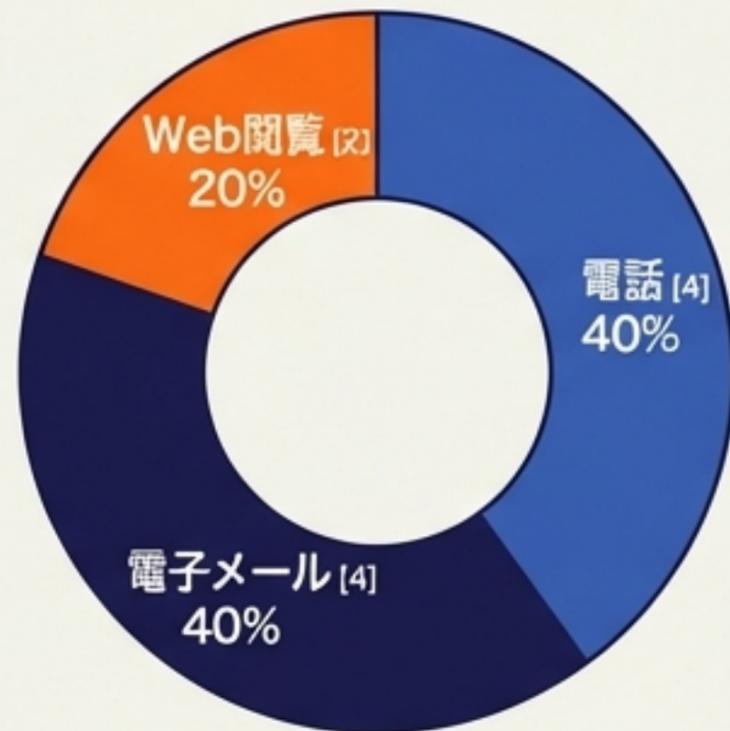
2007年のマイルストーン:
加入数 [9933万] 突破。
全人口の
[82%] に達し、固定電話を逆転。
電話発着信の2/3が携帯絡みに。

iモードの衝撃：「電話機」から「携帯情報ハブ」へ



通話機能は機能の一部に過ぎなくなり、
手の中の「情報ポータル」へと進化した。

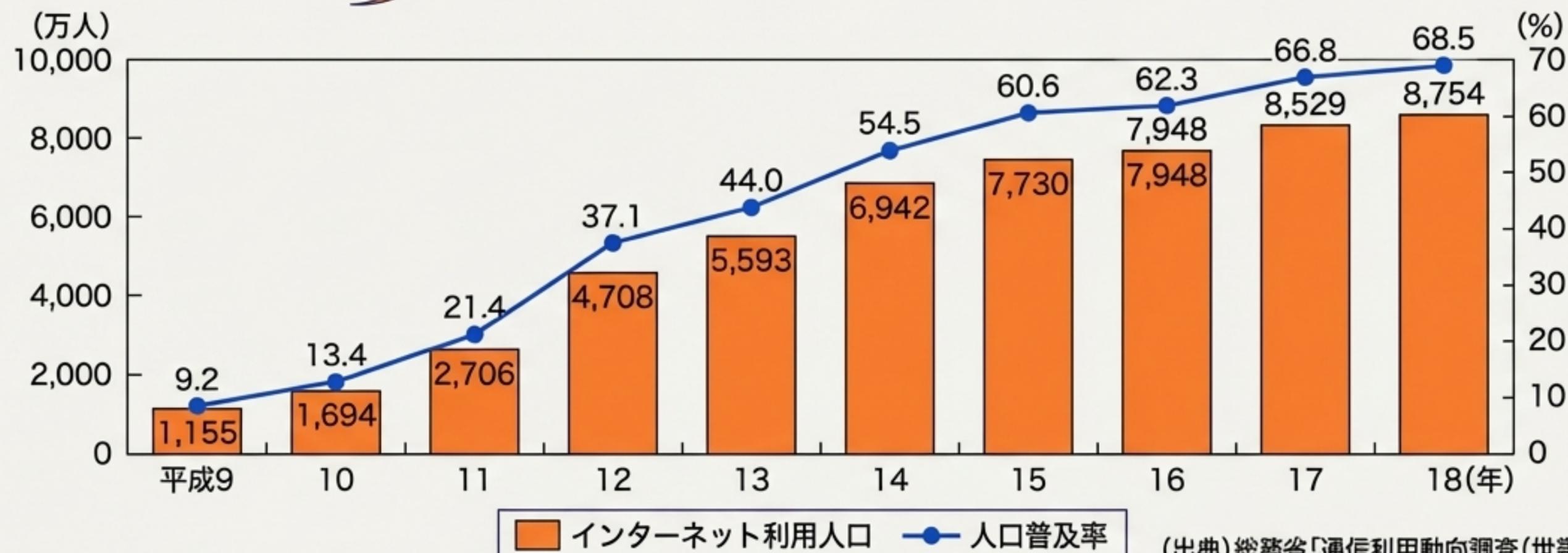
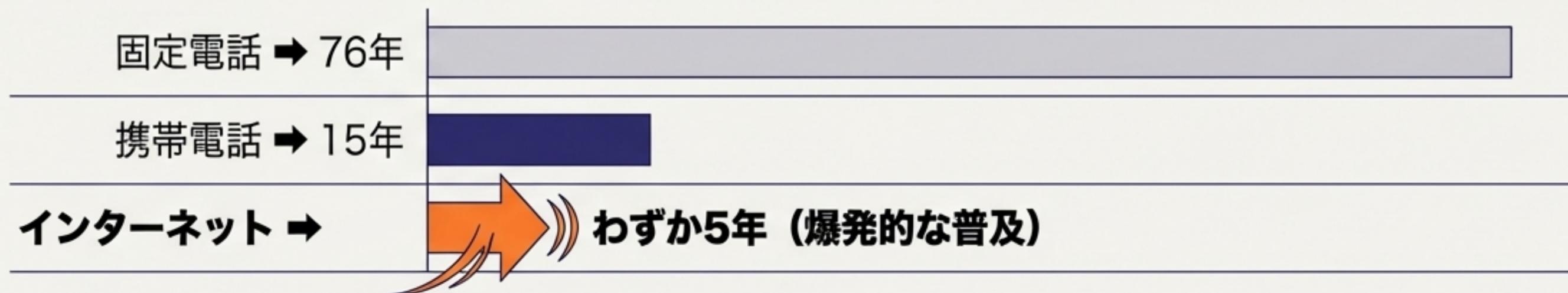
利用時間割合の衝撃



(出典)総務省「通信利用動向調査(世帯編)」

インターネットの爆発的普及：インフラ普及スピードの比較

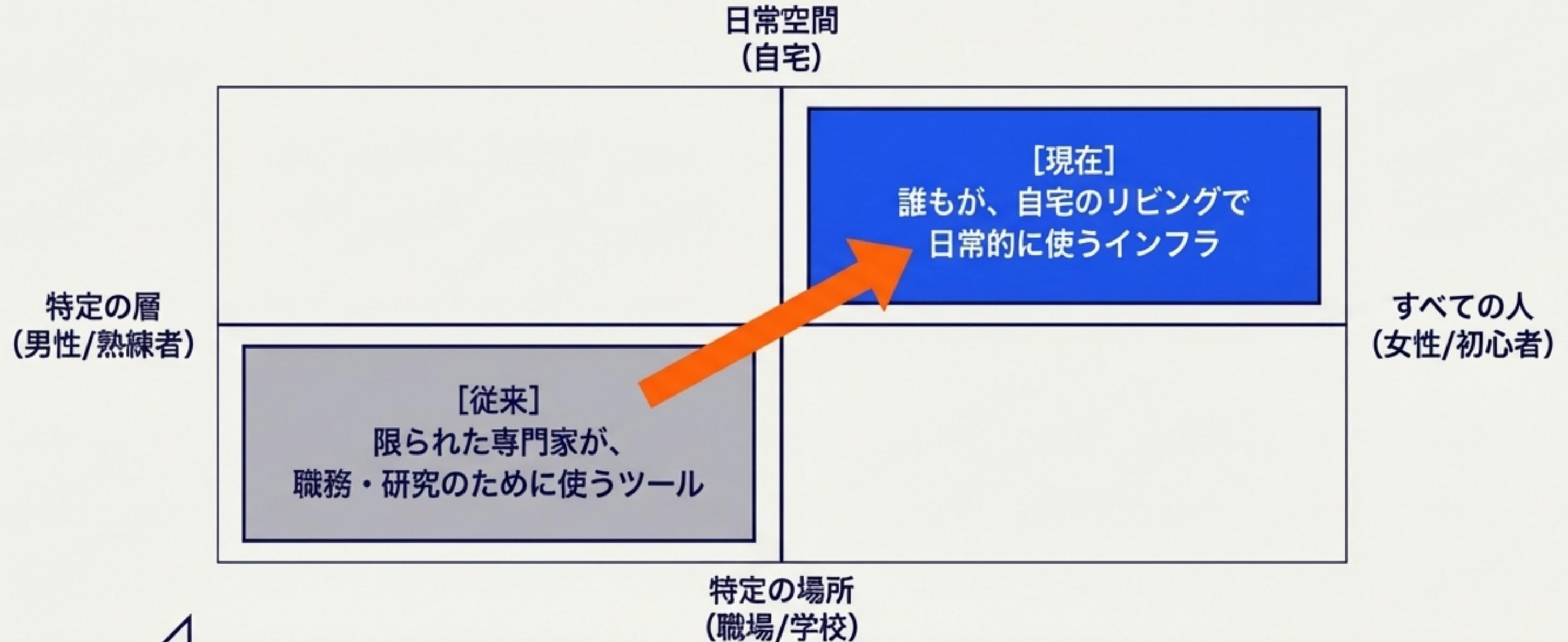
家庭普及率が「10%」に達するまでに要した年月



(出典)総務省「通信利用動向調査(世帯編)」

1990年商用利用開始↓1994年WWWブラウザ。
ブラウザ出現。2000年には世界の利用者4億人、
利用者4億人、日本では2500万人に到達。

パラダイムシフト：利用者と利用シーンの拡大



職場・学校で利用していた層が「自宅」にインターネットを持ち込み、同時に「女性」や「パソコン初心者」の割合が急速に増加した。

インフラの劇的進化：ブロードバンドと常時接続の衝撃

従来：ダイヤルアップ接続

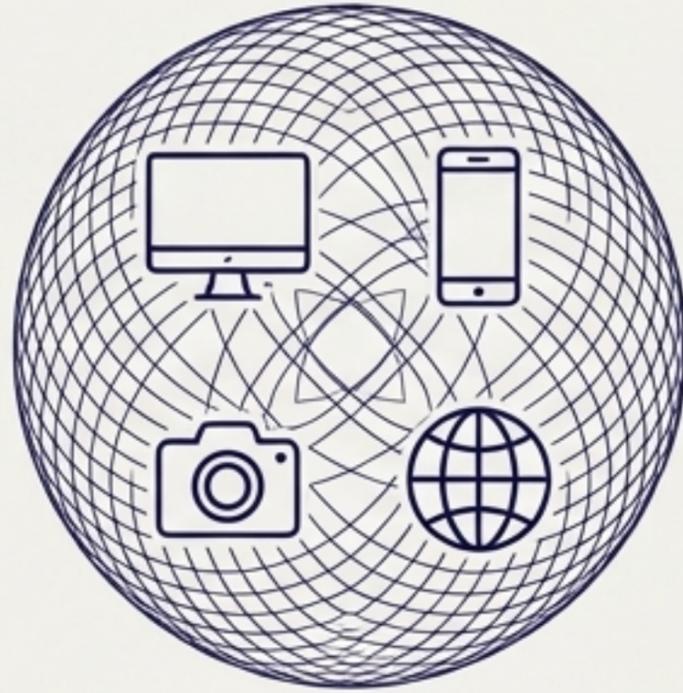
- 従量課金制
- 「電話料金を気にして、短時間だけ接続」
- テキスト中心のデータ通信

2000年～：常時接続とブロードバンド

- 高速通信（ブロードバンド）
- 2000年: NTT「フレッツISDN」「フレッツADSL」開始
- 2001年: 携帯電話での高速通信「IMT-2000」対応

「時間と料金を気にせず、音楽や動画などの大容量コンテンツを楽しむ時代へ」

総括：生活に溶け込むIT



私たちの日常・生活

ハードウェアの劇的な進化（ムーアの法則）と価格破壊は、デバイスを私たちの手元にもたらししました。そして、常時接続と高速インフラの整備により、テクノロジーは「特別な道具」から「空気のような存在」へと変わりました。

「2000年。それはインターネットが生活の中に完全に『融解』し、現代のデジタル社会の礎が完成した変曲点である。」